

編 集 後 記

11月に入ったとたんに寒波が来て慌ててタイヤ交換をしました。毎年恒例ですが、北海道に冬到来を実感させる行事です。北海道住民から今年を振り返ってみて、大きな出来事はG8北海道洞爺湖サミット（7月7－9日、2008年）ではなかったでしょうか。実際の成果は疑問視されますが、警備や規制に関しての迷惑度が記憶に残ったイベントだったような気がします。年末にかけてはアメリカ発信の金融不安が起こり、世界中が右往左往しているようです。日本の一般家庭はあまり株の変動に影響されないようで、輸出産業や投資家よりは冷静なように見受けられます（株を持っているのはお金持ちってことですね）。アメリカ大統領は来年1月から民主党のオバマ氏に決定した。イラクの問題、金融不安の問題等難問がオバマ大統領を苦しめるでしょう。これを乗り越えられるかどうかが大統領か並みの大統領かの分かれ道になることでしょうか。一方日本では選挙管理内閣と言われて発足した麻生内閣（福田康夫首相が突然9月24日に辞任）ですが、なかなか衆議院を解散しなくて宙ぶらりんと思っていたら、年末には定額給付金を一律に給付するか所得制限をするかなどと新聞で大きく報道されています。一度取めさせた税金を選挙対策用にばらまかれたのでは納税者は怒りと共に日本の行く末がますます心配になります。

私の仕事では考えさせられることが数多くありました。一つは私の仕事に密接な感覚神経や自律神経の機能不全が遺伝的に起こる病気、“無痛無汗症”のシンポジウム（10月11&12日、仙台）での講演会でした。これは小径線維である侵害性C線維や自律神経節後線維の発達・成長が遺伝的にできない（神経成長因子受容体（*TRK*；神経の細胞膜に存在し、NGFと結合して神経の成長・分化・生存に必要なシグナルを細胞内に伝達する蛋白質）の欠損）ことから痛みを感じることができないうえに、交感神経機能が働かないために体温調節ができなくなる病気で、日本に250名程度しかいない難病の一つです。親の会がしっかりしていて、医師、歯科医師、研究者らとのサポートを得て毎年勉強会をして、子供の将来などを話し合っていました、私の研究は全く基礎なのですが、このような会での講演をすることができ少しは社会に役立ったのかと実感できる発表会でした。

平成19年度から開始した”最近のトピックス”も皆様のお陰で順調に持続しています。内容も読みやすく、簡単に歯科領域の話題を知ることができ大変良い企画であったと思っています。最近は論文の紹介だけでなく、自分の研究に関連する諸々の話題（ノーベル賞や本人の研究の発端となっている話題など）を書いて頂き大変読みやすく、楽しく読めるトピックスが多くなってきました。私は北海道歯学雑誌の中ではこれを読むのが一番の楽しみになっています。これからも楽しい紙面作りに協力をお願い致します。

平成20年12月

和泉博之

北海道医療大学歯学雑誌編集長

次号（第28巻、第1号）の発行は平成21年6月30日です。

会員各位の投稿原稿募集の締め切りは平成21年3月31日必着と致します。期日厳守の上、ご投稿をお願いします。本誌投稿規定（2007年第26巻、第2号の巻末あるいは歯学部生理学教室のホームページ；<http://www.hoku-iryo-u.ac.jp/~physiol/>）をご参照の上、投稿してください。